

詩篇 119:145-152

- 145 私は心を尽くして呼びました。主よ。私に答えてください。私はあなたのおきてを守ります。
- 146 私はあなたを呼びました。私をお救いください。私はあなたのさとしを守ります。
- 147 私は夜明け前に起きて叫び求めます。私はあなたのことばを待ち望んでいます。
- 148 私の目は夜明けの見張りよりも先に目覚め、みことばに思いを潜めます。
- 149 あなたの恵みによって私の声を聞いてください。主よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。
- 150 悪を追い求める者が近づきました。彼らはあなたのみおしえから遠く離れています。
- 151 しかし、主よ。あなたは私に近くおられます。あなたの仰せはことごとくまことです。
- 152 私は昔から、あなたのあかしで知っています。あなたはとこしえからこれを定めておられることを。

קראתי בכל־ לב עֲנֵנִי יְהוָה חֲקִיךָ אֶצְרָה:  
 קראתיך הוֹשִׁיעֵנִי וְאֶשְׁמְרָה עֲדֹתֶיךָ:  
 קדמתי בְּנִשְׁפָּף וְאֶשְׁוָעָה לְדַבְרֶיךָ יְהוָה:  
 קדמו עֵינַי אֲשֶׁמְרוֹת לְשִׁיחַ בְּאִמְרֹתֶיךָ:  
 קולי שְׁמָעָה כְּחֹסְדֶךָ יְהוָה כְּמִשְׁפָּטֶיךָ תִּגְיֵנִי:  
 קרבו רִדְפֵי זְמָה מִתּוֹרֹתֶיךָ רַחֲמֵנוּ:  
 קרוב אַתָּה יְהוָה וְכָל־מִצְוֹתֶיךָ אֱמַת:  
 קדם יָדַעְתִּי מֵעֲדֹתֶיךָ כִּי לְעוֹלָם יִסְדָּתָם:

第十九字「コーフ」の発音は、英字アルファベットの「Q」または「K」に相当します。文字の形としては大文字の「P」と似ていなくもありません。

- קראתי (קרא) /カーラーティ (カーラー) …呼ぶ、呼び出す、暗唱する、読む、叫ぶ (145, 146)
- קדמתי (קדם) /キダメティ (カーダム) …出会う、来るまたは前にいる、直面する (147, 148)
- קולי (קול) /コーリー (コール) …声、音、騒音 (149)
- קרבו (קרב) /カールヴ (カーラヴ) …近くに来る、近づく、中に入る、近くに運ぶ (150, 151)
- קדם /ケデム…古代、古い、古くから、最古の (152)

本篇第一の特徴は、対になっている節の組み合わせが複数存在することです。

[同一趣旨]

- 145 私は心を尽くして呼びました。主よ。私に答えてください。私はあなたのおきてを守ります。
- 146 私はあなたを呼びました。私をお救いください。私はあなたのさとしを守ります。

ここでは多少のことばの変更があるだけで、内容的には同じことが言われています。主を呼んで答えを求める詩人の必死さが伝わってきます。

〔並行文〕

147 私は夜明け前に起きて叫び求めます。私はあなたのことばを待ち望んでいます。

148 私の目は夜明けの見張りよりも先に目覚め、みことばに思いを潜めます。

この二節では、詩人が早朝に起き出してまず御言葉に耳を傾ける姿勢が目には浮かびます。ユダヤ人は朝の祈りの時間を習慣的に持ちますが、それよりも早く祈るということでしょう。「夜明けの見張り」とは夜警の交替時刻のことですが、その任務が完了する前に、薄暗いうちに起き出すということです。思い出しますと、神学生時代には早天祈祷会が毎日ありましたが、いつからか韓国の学生たちが「早々天祈祷」を始めていました。彼らの祈る姿勢から多くを教えられました。

敢えて言うならば、以下の二節も関連し合っているでしょう。

〔近さ、遠さ〕

150 悪を追い求める者が近づきました。彼らはあなたのみおしえから遠く離れています。

151 しかし、主よ。あなたは私に近くおられます。あなたの仰せはことごとくまことです。

「悪を追い求める者が近づいた」という表現は不気味です。イスカリオテのユダが大勢を引き連れて主イエスを捕えるためにやって来た光景を思い起こします。

立て、行こう。見よ、私を裏切る者が近づいて来た。(マタイ26:46)

真理を行なわない者は神から「遠く」離れている。物理的距離としては主イエスに接吻するほど大接近するのですが、ユダの心は悪魔に明け渡されていました。詩人も何らかの意味で似た経験をしていたのでしょう。羊の皮を被って近づいて来る狼の本性を見抜いていたのです。

対から外れた二つの節を最後に見ておきましょう。

149 あなたの恵みによって私の声を聞いてください。主よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。本節においても「神のことば」を表す語がどれであるか、日本語訳では分かりにくいです。原文を当たると後半で「裁き」「正義」を意味する「ミシュパート」が使われていることが分かります。つまり、「あなたの決めておられるように」という部分がそれに該当します。神のことばが詩人を生かす。いのちのことばは、後に主イエスにおいて受肉しました。

152 私は昔から、あなたのあかしで知っています。あなたはとこしえからこれを定めておられることを。

神のことばは「とこしえから」「定め」られている。永遠に変わる事のない神のことばであるからこそ、移りゆく世に生きる人間は唯一絶対的なものとして依り頼むことができるのです。そのことばを毎朝一番に聞くことができる人生は、まさに特権と言えないでしょうか。